



# 熊本市 感染症発生動向調査 速報



RSウイルス感染症が増えています。引き続き注意しましょう。特集は感染性胃腸炎についてです。

感染性胃腸炎には、細菌性のものとウイルスによるものがありますが、夏季に多い傾向があるのは細菌性胃腸炎です。少し涼しくなりましたが、引き続き気をつけましょう。

### ◆どんな病気？

細菌性のもものでは、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌（O-157等）、サルモネラ、カンピロバクターなどが原因となります。

- ・症状……原因となる病原体の種類、感染経路、身体に入った病原菌の量、感染者の健康状態により異なりますが、主に吐き気や下痢、嘔吐、腹痛、発熱などがみられます。
- ・潜伏期間…1～3日程度（病原体によりもっと長い場合もある）
- ・感染経路…病原体が付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。
- ・流行期……細菌性胃腸炎に関しては、年間を通して発生がありますが夏場に増加するものが多いです。

### ◆かかったらどうすればいいの？

- ・細菌によるものであれば、抗生物質の服用が有効な治療法となります。
- ・下痢や嘔吐が続くときには、脱水に気をつけます。嘔吐がおさまったら、少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をするよう心がけましょう。



### ◆予防法は？

- ・帰宅時や食事の前、トイレの後に、流水と石けんでよく手を洗いましょう。
- ・二次感染を防ぐため、患者の便や吐物の処理は、直接触れないよう使い捨て手袋やマスクを着用し、汚染された衣類や床などは、次亜塩素酸ナトリウムや熱湯、アルコール（ノロウイルスには無効）等でしっかり消毒しましょう。
- ・調理をするときは、中心部まで火が通るようによく加熱しましょう。二枚貝などは中心部が85～90℃で少なくとも90秒間の加熱が必要とされています。

期 間		平成30年 36週		平成30年 37週	
		9/3～9/9		9/10～9/16（最新）	
疾患名 <small>（百日咳は平成30年1月1日より全数報告へ変更になりました）</small>	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		0	0.00	1	0.04
RSウイルス感染症		40	2.50	63	3.94
咽頭結膜熱（プール熱）		1	0.06	3	0.19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		20	1.25	34	2.13
感染性胃腸炎		74	4.63	46	2.88
水痘（みずぼうそう）		4	0.25	4	0.25
手足口病		17	1.06	14	0.88
伝染性紅斑（りんご病）		0	0.00	1	0.06
突発性発しん		11	0.69	6	0.38
ヘルパンギーナ		24	1.50	14	0.88
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		1	0.06	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎（はやり目）		14	2.80	17	3.40
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎（オウム病を除く）		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎（ロタウイルス）		0	0.00	0	0.00